発達教育学研究科 平成29年度 教員組織

博士前期課程

教育学専攻

岩槻　知也　教授＊＊　［博士（人間科学）］

■社会教育学、生涯学習論
●成人基礎教育の内容・方法・制度／社会教育施設のサービスのあり方／「生涯学習」の理念と政策動向

△『家庭・学校・社会で育む発達資産―新しい視点の生涯学習』
△『日本の教育をどうデザインするか』
△『社会的困難を生きる若者と学習支援―リテラシーを育む基礎教育の保障に向けて』
□識字教育における方法の体系化に関する予備的考察
□批判的リテラシー研究の動向とその意義
□「イギリスにおける成人基礎教育政策の動向とその評価―政策の歴史的変遷」

表　真美　教授＊＊　［博士（学術）］

■家族関係学、家庭教育学、家庭科教育学
●教科書における家族像に関する歴史社会学的研究／現代の子育て・家庭教育に関する実証的研究／現代の子どもの生活実態・家族コミュニケーションについて

△『家庭と教育 子育て・家庭教育の現在・過去・未来』
△『子どもと食　食育を超える』
△『食卓と家族 食卓での家族団らんの歴史的変遷』
□ドイツ初等・中等教育における家政教育―ヘッセン州基礎学校における裁縫教育・食教育の事例を中心に―
□保育者がとらえる子どもの自立と家庭教育―幼稚園教諭・保育士を対象とした質問紙調査から―
□戦前期の『主婦之 友』にみる既婚女性・母親の就労

谷川　至孝　教授＊＊＊

■教育学
●教育行政／教育政策／英国の教育／ボランタリーセクター／教育と福祉の連携

△『学級編成と地方分権・学校の自律性』
△『Educational System and Administration in Japan』
△『地方政府における教育政策形成・実施課程の総合的研究』
□「子どもの貧困」対策から「子どもの社会的包摂」へ―家族主義＝自己責任論を乗り越える―
□英国労働党教育政策にみるポスト福祉国家レジーム（1）―先行研究の整理と研究枠組みの設定―
□英国労働党「第三の道」における行政の統合化の位置―「すべての子どもを大切に」を中心に―

宮野　純次　教授＊＊　［博士（教育学）］

■科学教育
●理科教育学／環境教育／カリキュラム論

△『ドイツの理科教育―その伝統と革新―』
△『小学校理科の指導〔第2版〕』
△『自然体験学習論～豊かな自然体験学習と子どもの未来～』
□ドイツの初等教育における理科教育の改革―基礎領域と中等教育との接続を考慮して―
□ドイツの初等・基礎領域における自然に関する学習―ハンブルク州における学びの連続性について―
□教職大学院における授業改善・ＦＤ活動―京都教育大学大学院連合教職実践研究科の事例検証―

森　繁男　教授＊＊

■教育社会学、ジェンダー論
●ジェンダーと教育に関する総合的研究／子どもの生活と教育に関する実証的研究／男女平等教育に関する実践的研究

△『教育とジェンダー形成―葛藤・錯綜/主体性―』
△『解放を学ぶ女たち』
□学力の階層格差とその克服―社会的支援の可能性―
□学級における「いじめ」の構築とジェンダー言説―女子大学生による「振り返り」からの緒論―
□多様な個性を育てる教育の社会的課題―階層とジェンダーにみる格差の克服―

坂井　武司　准教授＊　［博士（情報学）］

■数学教育学
●算数・数学教育／教師教育

△『子どもの学力を高める新しい算数科教育法』
△『授業に役立つ算数教科書の数学的背景』
◇Logical analysis of ratio inference by children
◇割合に関する概念的知識と手続き的知識の統合
◇算数教育における教師の授業実践力に関する尺度開発

松岡　靖　准教授＊＊　［博士（教育学）］

■社会認識教育学、学校教育学
●メディア社会における社会科カリキュラムに関する研究／ESDの理念に基づく世界文化遺産の教材構成に関する研究／デジタル教科書活用によるアクティブラーニング型授業構成に関する研究

△『メディア社会に焦点化した小学校社会科カリキュラム開発研究』
△『文化を基軸とする社会系教育の構築』
△『若い教師のための小学校社会科Chapter15』
□学習指導要領に依存した社会科授業からの改善方略―学習者の「状況」に着目した教科書メディアを相対化する授業改善を通して―
□社会科の教科論理に応じたＩＣＴメディア活用
□災害社会学の成果に基づく社会科「災害単元」の開発研究（1）

宮﨑　元裕　准教授＊

■比較教育学
●多文化社会における価値教育の機能と役割／トルコの教育制度と教育改革

△『日本の教育をどうデザインするか』
△『世界の宗教教科書』
△『現代アジアの教育計画（下）』
□トルコにおける多元的宗教教育の状況とその可能性―イギリスとの比較を通して―
□トルコにおける2012年義務教育改革―宗教関連選択科目の新設とイマーム・ハティプ中学校の再開に注目して―
□多文化時代における価値教育の変容―論理的思考の重要性に注目して―

村井　尚子　准教授＊

■教育哲学
●現象学的教育学／教師教育

△『応答する教育哲学』（第23章「ユトレヒト学派の現象学―現象学的心理学から現象学的教育学へ」）
△『ランゲフェルト教育学との対話―「子どもの人間学」への応答』（第2部「親であることの教育的考察―ヴァン＝マーネンの教育学の基底として」）
□教師教育における「省察」の意義の再検討―教師の専門性としての教育的タクトを身につけるために―
□ヴァン=マーネンの教育的タクト―定義と特徴―
□気がかりとしてのケア―教育とケアは分離可能か―
□実習における「教育的契機」への反省的記述―反省的な幼稚園教員養成のための一方策―

心理学専攻

瓜生　淑子　教授［博士（教育学）］（博士後期指導補助教員）

■発達心理学
●言語獲得期の格関係の理解／聴覚障害児の手話・日本語の獲得／子どものウソと自我の発達／子育て支援施策の理念・実際の検討

△『格助詞獲得の時期と過程に関する発達的研究』
△（共著）『発達障害児の発達支援と子育て支援』
□Lying and Theory of Mind:Young Children's Responses to a Deception Task
□母親の育児肯定感の規定要因―「家庭優先か仕事優先か，それとも…」を巡る希望と現実の狭間で―

■専門分野 ●研究テーマ △著書 □単著論文 ◇共著論文（その他著書・論文については HP を参照してください）
＊＊＊は博士前期・後期指導教員 ＊＊は博士前期・修士課程指導（補助）教員 ＊は博士前期・修士課程授業担当教員

修士課程

表現文化専攻

岩原 昭彦 教授＊＊ ［博士（心理学）］

■神経心理学、健康心理学
●認知の予備力と認知機能の低下勾配との関連性の検証／健康増進行動に対するポジティブ心理学的介入の効果の検証
□認知の予備力をめぐる最近の動向
◇住民健診を対象とした短縮版 MMSE(SMMSE)の有用性と妥当性
◇Developmental Changes of prefrontal cortex and cerebro-cerebellar functioning in older adults: evidence from stabilometer and cognitive test

倉本 義則 教授＊＊

■障害児・者心理学
●障害理解教育に関する研究／職業リハビリテーションの方法に関する研究

□実習不安と実習での体験・学びとの関係について
□実習不安と評価不安および対人恐怖心性との関係
□障害者施設実習に対する不安 ―不安の因子構造および不安と経験との関係―

古池 若葉 教授＊＊

■認知発達心理学、臨床心理学
●描画における感情表現の発達過程／描画と書字に関する表記知識の発生と発達過程／発達的な偏りのある子どもにおける言語的コミュニケーションのアセスメントと支援

□幼児における数字の読みと書きの発達
□数表記知識獲得の基礎としての子どもの数学的理解
□ASD児者の語用障害の要因 ―心理士としての支援のあり方についての考察―

箱田 裕司 教授＊＊＊ ［文学博士］

■実験心理学
●ストループ・逆ストループ効果、Navon 課題、有効視野課題を用いた注意の研究

△『The interference of local over global information processing in children with attention deficit hyperactivity disorder of the inattentive type.』
△『An Asymmetric Stroop/reverse-Stroop interference phenomenon in ADHD.』
△『蝶図形の認知とカテゴリー化』

広瀬 雄彦 教授＊＊＊ ［博士（教育学）］

■認知心理学、言語心理学、教育心理学
●視覚的単語認知の研究／リーディング・スキルの研究

△『日本語表記の心理学』
□漢字および仮名単語の意味的処理に及ぼす表記頻度の効果
□視覚的単語認知における頻度効果の再検討
◇Reading disabilities in modern Japanese children.
◇スキーマの個別性が虚再生に及ぼす影響 ―目撃証言の観点から―

吉村 英 教授＊＊（博士後期指導補助教員）

■社会心理学、認知心理学、教育心理学
●情報化社会に生きる人々の意識構造／大学教育とキャリア発達に関する研究／社会的スキルと攻撃性

□大学卒業3年後および10年後の女性のキャリア意識
□キャリア意識の形成が大学生活の満足感に及ぼす影響
□女子大学生における幸福の概念と幸福感の規定因

稲塚 葉子 准教授＊

■臨床心理学
●思春期の性同一性／青年期の同一性形成と諸要因

□青年期における「私」の生成について
◇参与観察実習としての「子育て教室」
◇「子育て教室」参加者のアタッチメントの安定性と心理的支援

下津 咲絵 准教授＊＊

■臨床心理学、認知行動療法
●精神疾患のセルフスティグマ低減に対する認知行動療法の有用性の研究

□精神疾患のセルフスティグマに関する実証的研究の動向
◇Effectiveness of group cognitive-behavioral therapy in reducing self-stigma in Japanese psychiatric patients
◇An investigation of anxiety about radiotherapy: Deploying the Radiotherapy Categorical Anxiety Scale
◇地域クリニックにおける集団認知行動療法の実践の試み
◇中学生における多動傾向と自尊感情の関連：Wender Utah Rating Scale を用いた予備的研究

松浦 ひろみ 准教授＊

■発達臨床心理学
●子どもの物語表現と内的世界に関する研究／児童期から思春期にかけての愛着表象に関する研究／小児科領域における心理臨床に関する研究

◇小児がん患児家族の外傷後ストレス症状と心理的支援
◇幼児期後期における愛着表象の投影的測定法 ―親子関係質問紙及び教師による対人行動評定との関連―
◇「子育て教室」参加者のアタッチメント安定性と心理的支援

大谷 正和 教授＊＊

■ピアノ、現代音楽
●20世紀ピアノ音楽の研究／J.S.バッハの鍵盤作品の研究

□メシアンと鳥 ―「鳥のカタログ」の分析を通して―
◇変拍子の楽曲に対するピアノ指導についての一考察 ―バルトーク《ブルガリアン・リズムによる６つの舞曲》を中心として―

ガハプカ 奈美 教授＊

■声楽、声楽教育
●呼吸法と表現教育の関わり／教育と音楽の関わりあい

△『感性をひらいて保育力アップ「表現」エクササイズ＆なるほど基礎知識』
□音楽教育における感覚的認識の一考察
□ヴォイス・トレーニングの授業における自己表現の展開 ～呼吸法を用いた活動の有効性～
◇感性を育む表現教育のプログラム開発 ―「楽曲を描く」課題を中心に―

関口 博子 教授＊＊

■音楽教育学・音楽教育史
●近代スイス・ドイツのペスタロッチ主義による学校音楽教育の改革と合唱運動

△『近代スイス・ドイツの音楽基礎教育と歌唱活動』
△『近代ドイツ語圏の学校音楽教育と合唱運動 ―19世紀前半のスイスにおけるH.G.ネーゲリの思想とその活動を中心として―』
□J.R.ヴェーバーの唱歌教育改革論とその方法 ―ペスタロッチ主義との関連性を視点として―
□リトミックの理念―リズムの根本思想―
□J.A.P.シュルツ『民謡調の歌曲集』の特徴 ―18世紀後半のドイツにおける民衆啓蒙と音楽教育との関わりを視点として―
□H.G.ネーゲリの教育改革構想 ―ペスタロッチ主義という視点から―
□19世紀前期ドイツ語圏スイスにおける学校音楽教育の改革と合唱運動 ―H.G.ネーゲリの思想とその活動の歴史的意義―

田中 純 教授＊＊

■声楽
●ドイツ歌曲研究／日本歌曲研究／声楽発声研究

△『歌唱表現の基礎的技巧』
□F.シューベルト「冬の旅」
□オペラ「源氏物語」
□H.ヴォルフ 歌曲研究
□大中 恩 歌曲研究